

エイジズムに影響を及ぼす要因に関する考察

- 年齢階層別比較、及び地域関係・自尊感情による影響の検討 -

皇學館大学 関根 薫 (003162)

キーワード：エイジズム、地域関係、自尊感情

1. 研究目的

近年、エイジズムについて、その要因を明らかにしようとする実証的研究が蓄積されてきており、個人の諸属性、身近な高齢者の有無、高齢に対する知識量、生活満足度などとエイジズムが有意な関係にあることが明らかにされつつある。しかし現状においては、これら要因分析の際に従属変数として設定されるエイジズムの構造については、その解明を目的とした実証的研究の少なさから明確になっているとは言い難い状況にある。また、先行研究における分析対象は、若年層、あるいは中高年層といった特定の年齢層に焦点を絞り行われているケースが多いことから、全年齢層を分析対象としたエイジズムの構造、及び要因について更なる検討が必要であると考えられる。

そこで、本報告では、地方都市で実施した調査結果を検討対象とし、エイジズムの構造、エイジズムに影響を及ぼす要因、年齢階層による影響、の3点を明らかにすることを目的とする。その際、エイジズムに影響を及ぼす要因として基本的属性に加え、地域関係、及び自尊感情との関連について検討を試みる。

2. 研究の視点および方法

本分析では、2010年8~9月、A市内に居住する満20~75歳の市民を対象に郵送法で実施した調査結果を検討の対象としている。サンプリングは、2010年3月現在のA市選挙人名簿抄本を用いて系統抽出法によって1,026ケースを抽出した。有効回答数は443ケース（有効回答率43.2%）であった。

本研究に用いた調査項目を簡単に説明すると、調査対象者の属性についての項目（年齢、性別、結婚、学歴、職業、健康状態、暮らしぶり、要介護者の有無、同居家族）、エイジズムを測定する項目、感情を測定する項目（老後不安感、自己加齢感、自尊感情）、地域関係を測定する項目（自治会や町内会に対する考え）といった4分野の設問を設定し回答を求めた。

また本分析では、原田らが開発した「日本語版 Fraboni エイジズム尺度（短縮版）」（原田ら、2004）を用いてエイジズムの構造分析、及び要因分析を試みた。また独立変数として用いる自尊感情を測定する尺度としては、Rosenberg が開発した「Self Esteem Scale」（Rosenberg、1965）の山本らによる翻訳版である「自尊感情尺度」（山本、松井、山成、1982）を用いた。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針に沿って実施した。また、調査票の配布・回収にあたっては、匿名性の確保に配慮することで倫理的配慮を行った。

4. 研究結果

エイジズムの構造

本分析では、日本語版 Fraboni エイジズム尺度(短縮版)14項目に対する因子分析の結果、エイジズムの構造として「嫌悪」「拒絶・回避」「偏見」の3因子が抽出された。先行研究との比較において、因子数の点では類似した結果が得られたものの、その内容については、異なった結果となった。

エイジズムに影響を及ぼす要因

エイジズム全体尺度及び下位尺度を従属変数に、基本属性、及び地域関係、自尊感情を独立変数に設定した重回帰分析の結果、エイジズム全体尺度については、年齢、地域関係、加齢意識、自尊感情が有意に影響を及ぼしており、年齢が高いほど、自治会や町内会を必要としているほど、年をとったと感じていないほど、自尊感情が低いほど、エイジズムが強まる傾向にあった。

また、下位尺度との関係では、第1下位尺度(嫌悪)において、地域関係、自尊感情と、第2下位尺度(拒絶・回避)において、年齢、健康状態、地域関係、加齢意識、自尊感情と、第3下位尺度(偏見)において、年齢、自尊感情と有意な関係にあった。

年齢階層による影響の比較

年齢階層(若年層:20~39歳、中年層:40~59歳、高年層:60~75歳)ごとに、エイジズムに影響を及ぼす要因を比較した結果、若年層については、健康状態、老後不安感、自尊感情との間に有意な関係が認められ、健康状態が悪く、老後不安感を感じないほどエイジズムが高まる傾向にあった。中年層については、地域関係、加齢意識、自尊感情との間に有意な関係が認められた。高年層については、地域関係、自尊感情との間に有意な関係が認められ、10%水準では、職業の有無とも有意な関係にあった。

地域関係及び自尊感情のエイジズムへの影響

地域関係については中・高年層において、また下位尺度との関係では、「嫌悪」「拒絶・回避」に影響を及ぼしていることが明らかとなったことから、中年期以降の地域社会へのコミットメントが、高齢者に対する嫌悪や拒絶・回避を弱める効果を持つことが考えられる。

他方、自尊感情については、全年齢階層、及び全下位尺度においてエイジズムに影響していることが明らかとなったことから、自己への否定的感情が高齢者への差別意識を規定することが考えられる。